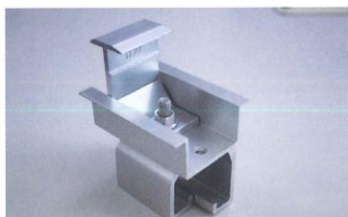


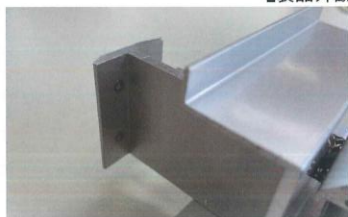
アルミ素材の太陽光新架台、重さ従来比1/3 ワンタッチ固定そのままに、塩害・積雪地域対応も

ハゼ式折半用掴み金具『SMACAL』

『SMACAL』概要



■製品外観



■内蔵されたアースピン

■3つの特徴

軽量化

Agility

現行モデルの700gから220gに軽量化したことで、搬入や据付などの施工を簡素化。

耐塩害

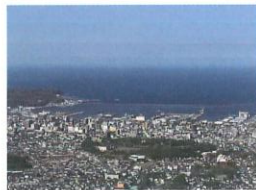
Anti-salt

アルミ製への変更(ボルトはステンレス製)により塩害地域の対応が可能に。

コストダウン

Affordable

アルミ製と大量生産でコストダウンを実現。施工性向上により作業時間を短縮し、労務費も削減へ。



太陽光パネル用架台メーカーの動力(鈴木竜宏社長)は9月2日、約10年ぶりに架台をリニューアルした。素材をZAMからアルミに変更することで、従来品と比較し、重量を220gと1/3の軽量化を実現。塩害・積雪地域にも対応した。まずは半年で産業用として工場などの折半屋根へ10MWの出荷を目指す。今後、各部位の強度のバランスなどを図りながら、屋根形状に合わせた住宅用への設計も検討しているという。

同社がリニューアルした架台『SMACAL』は、14年から販売し、住宅及び産業用の金属屋根に累計150万個以上出荷している『SMAC』の後継品にあたるもので、ボルト1本で、屋根のハゼ締め、パネルの固定が可能な機能はそのままに、素材を高耐食性メッキ鋼板のZAMからアルミに変更し、軽量化させた。同社開発デザイン課の岸本正輝課長は「同タイプの架台だと、ハゼの固定とパネルの固定で2工程必要なケースが多いが、同製品であれば、ボルト1本で締められるため、施工が容易だ」と特徴を語った。従来品との最大の違いは素材にあるが、アルミを使用することで、太陽光パ

ネルのアースが取りづらくなる点については「アルミ素材の場合、アースプレートを載せて対応することが多いが、同製品ではパネルの固定部分、ハゼ締めの部分にアースピンを埋め込んでいる。今まで通りボルト締めのみで、アースを取ることができるため、労務コストを削減できる」と自信を覗かせた。加えて220gという軽量化についても「当社調べでは、業界最軽量を実現した」とする。

同社は金属屋根の掴み金具を先行して発売してきたが「アルミを使用した架台が他社から続々と販売されてきた」とし、続けて「従来品のZAM素材では錆びにくいものの、経年劣化とともに全く錆びないとは言い切れず、塩害地域などでは対応ができなかった」と素材を刷新した経緯について説明した。コストについても従来品を開発してきたノウハウから、各部位の強度について徹底して計算と設計を重ね、必要最低限の素材を使用することで、開発コストを削減できているという。施工については、屋根の中間部、端部共用の取り付け金具1種類で対応できることに加え、組付けで納品されることか

ら、コストダウンを実現できているとした。

また同社は全国5ヵ所の営業拠点を持ち、工務店や商社などの太陽光パネル工事も請け負っている。「各種申請の代行も行っているため、住宅事業者の方の業務効率化を支援できれば」と太陽光パネル関連の部材を扱うメーカーとしての強みも語った。来年1月ごろには、6拠点目として大阪への展開も検討しているという。「自社の強みである、請負工事における現場の声を集約し、今後もエリアごとの特色を反映しながら、製品開発を行なっていく」と語気を強めた。



動力
開発デザイン課
岸本正輝 課長